



岡村病院  
院内報

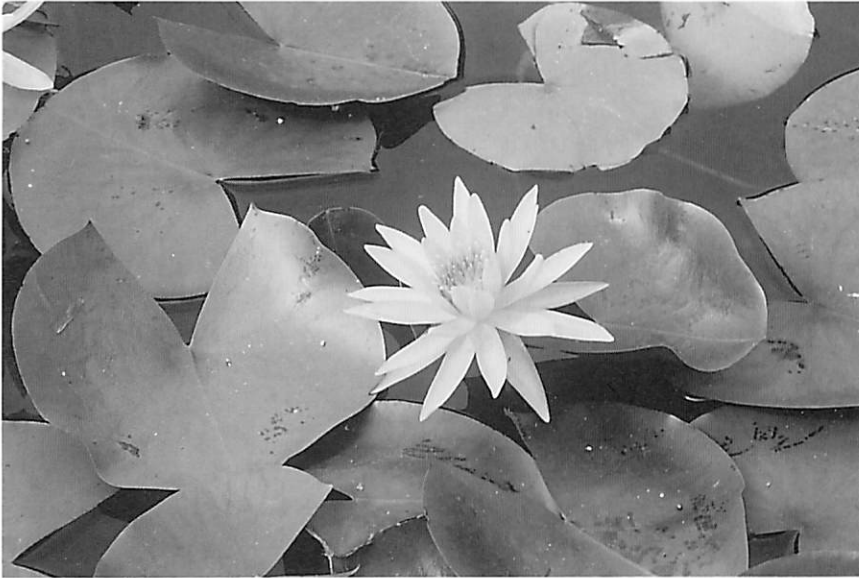
# 歩 (あゆみ)

第 30 号

発行 岡村病院  
編集 歩 (あゆみ)  
編集委員会  
平成10年9月1日

## 岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え  
高度な専門医療技術をもって  
地域社会に貢献することを目指します。



「水蓮」 - 城西公園にて - 高松和永先生 写

今月のことば

## 和顔愛語 (Ⅱ)

「ことばは傷つけ、ことばは生かす」と言います。

悪意はないにしても、私共の不用意な、思慮のないことばが、人に不快な思いをさせたり、人の心を傷つける事があります。そして、ことばによって傷つけられた傷はなかなか治りません。

しかし、明るい笑顔や、やさしい思いやりのあることばは人の心をなぐさめ、力づけます。

当院で入院患者さんに、退院時アンケートをお願いしておりますが、その中の「入院中印象に残った最も良かった事」という質問に対して、ある患者さん（男性）が、

「医師をはじめ職員全員が笑顔で対応してくれた事、午前2時に暑さと痛みの為、氷枕を頼んだところ、笑顔で持って来てくれて、『また何かありましたらどうぞ』と言ってくれた事」と書いて下さっていました。

こういう機会は私共の日常生活の中でもよくあると思います。前にもこの欄で書いた事がありますが「和顔愛語」が人を生かします。

毎日の生活の中で、仕事の中で「明るい笑顔、やさしいことば」を忘れないようにしましょう。

# 局所麻酔の思い出



石立クリニック

院長 間 崎 民 夫

私は子供の頃は近くの山で走り回り、しょっちゅうけがをしていました。一時期は月に一回くらいの頻度で2、3針の縫合をしなければならぬようなけがをしていました。私の祖父が外科医でしたので、いつも縫ってもらっていたのですが、麻酔をしない人だったのです。「麻酔の注射針を刺すくらいなら縫っちゃったほうがまし。」と豪語。幼い私は縫うたびに悲鳴をあげ大暴れ、看護婦さん達を手こずらせていました。ふだんはよく遊んでくれるし、お年玉はたくさんくれるいいおじいちゃんだったので、けがをした時は私は逃げ回り、捕まって縫われた後は1日中泣いていました。

小学校は高知大学付属小学校、私が5年の時朝倉の高知大学構内の兵舎あとから現在の小津町に移転しました。この頃のことです。体育の授業の時、私はふざけて友達の短パンをはき、逃げ回っていました。そのはずみで私は壁にかけていた消火器に激突し、額を3cmほど切っただけで一瞬意識を失う状態だったようです。まわりの友達や先生方はびっくりしたようで、私が気がついた時は多くの友達に両手足を抱えられ、宙ぶらりんで運ばれて行くところでした。そして着いた病院でまた縫う羽目になったのですが、私はよその病院にかかるのはこれが初めて、ここで泣いてはみともないとぐっと歯を食いしばり覚悟をしたのです。そして私の目の前に、というより顔の上にお医者さんのこわい顔がおおいかぶさり、「目をつぶりなさい!」私はもう生きた心地がしませんでした。手術開始、しかし最初のひと針がチクッとし、ツーンとした重い感覚とともに痛みは遠ざかり、その後は何かガサゴソとやっているだけで全く痛みは感じませんでした。「終わったよ。」お医者さんの低い声。「なんだこれは。本当に縫ったのかな?」私は啞然としていました。

麻酔というものがある事は知識として知って

いましたが、この程度の、皮膚を縫うぐらいのけがでも行うものなのだという事、こんなに素晴らしいものであるという事、をこの時初めて知りました。今となっては当たり前前の麻酔ですが、当時は虫垂炎ごときでは麻酔をしない病院もあったとか、本当でしょうか。

付小の校舎から出て東の方向、そしてほんのすぐの距離、帰りの道筋、そうですこの麻酔の素晴らしさを教えてくれたのは岡村病院の先代の院長ではないかと思うのです。なにせ36年前で、小学生の地理状況、はっきりとはしていませんがそんな気がしています。

さてこの時の、けがの痛みに対して、極力痛まないように処置してくれたという感動、感謝の気持ちは私が医者になってからも息づいています。私は内科医で、“切った貼った”は、ほとんど行わないですが、大学病院時代は色々なカテーテル挿入、気管切開、リンパ管造影、骨髄穿刺などでは局所麻酔を行うし、現在でも小さな切り傷の縫合や、皮膚の化膿創の切開、骨髄穿刺くらいは行います。こんな時一番気を遣うのが、患者さんの痛みです。患者さんは痛むという症状で病院を訪れるのに、治療のため痛むのでは意味がないのではないか、わけのわからぬ検査のため切り刻まれ痛み苦しむのでは不本意ではないか、と思うわけです。

私は麻酔の針を刺すとき、まず27G~30Gの細い針で炎症のない皮膚の過敏になってない部分から針を入れ、ゆっくり確実に皮内に浸潤させ全体に広げていきます。骨髄穿刺の時の麻酔は難しく、骨髄内部までは麻酔は浸潤しませんので、せめて皮膚、骨膜までは確実に麻酔しないとかなり痛みます。この骨膜の麻酔が難しく、きちっと麻酔をしないと患者さんは二度と骨髄穿刺をしないと云います。

検査や治療では極力痛みを感じさせないように、これが私が心がけている事のひとつで、私

自身が病気になれば、やはり痛みのわかるお医者さんにかかりたいし、自分もそのような医

者を目指して生きていきたいと考えています。今後ともよろしくご意見申し上げます。

## 退院時アンケートの

## お礼と結果について

当院では、外来患者さん、入院患者さんへのアンケートと、全ての方からご意見をいただく意見箱を設置して、サービス向上に役立てたくご協力を、お願いしております。

皆様方から、大変貴重なご意見、おしかり、励ましを多数いただきまして厚く御礼申し上げます。

今回は、入院患者さんに退院時をお願いしております退院時アンケートのご意見、ご要望と、意見箱のご意見等に対するご返事、今後の対応策等についてご報告いたします。

ご意見、ご要望等	ご返事、今後の対応策等
鍵付きの傘立ての設置	傘立て横に水切り機がありますので、水をとってお持ちいただければとおもいます。
通用口の段差の解消	コンクリートでスロープにいたしました。
身障者用駐車場の使用制限	身障者用駐車場については、マークと貼り紙で一般の方のご利用を極力ご遠慮をお願いしております。 しかしながら、駐車可能台数が不足しておりますので満車時には、使用する状況となっており、大変ご迷惑をおかけしております。 早急に駐車場増設を課題としておりますが、現在の所予定が立っていないのが現状です。 一般の方々には、大川筋の駐車場に余裕がありますので、少し遠くなりますがご協力お願い申し上げます。
手洗いに石鹸を置いてほしい	ボトル形式の、市販石鹸殺菌液を置きます。
病室にちり箱を置いてほしい	ちり箱の選定をしています。但し、当面は個室のみの設置とさせていただきます。
J R、バスの時刻表の表示	現在、J R入明駅と洞が島バス停の時刻表を1 F 掲示板に掲示しておりますのでご利用ください。
ケーブルテレビの視聴について	個室では、ケーブルテレビの基本契約チャンネルが、ご覧になれます。他の有料チャンネルは一ヶ月単位で別途料金となりますがご覧になれます。看護婦または事務職員にお申し付けください。
食事について	食事に関して多数のご意見、ご要望をいただいておりますが、アンケート等を基に全体的な質の向上に努めております。個人対応については入院時に管理栄養士がお伺いしますので何でもおっしゃってください。入院途中では、看護婦、栄養士等だれにでもおっしゃってください。
職員教育	職員の接遇態度や、専門知識向上のために、研修会や講習会の開催等、職員教育をしておりますが、多くのご意見やおしかりをいただいております。今後も継続して教育してまいりますので、何かありましたらご遠慮なくお申し付けくださるか、意見箱に投函ください。

上表以外にも、多数ご意見ご要望をいただいております。誌面の都合上、省略させていただきましたが、今回記載のないご意見ご要望についても、全て、対処、検討しておりますのでご了承ください。次回、ご報告させていただきます。

今後とも、何かありましたら何なりとお申し付けください。

# 司馬遼太郎と父

院長 岡村 高雄  
(心臓血管外科科長)



「週刊朝日から電話ですがどういたしましょうか？」と突然受付から電話がかかってきた。確か去年の末頃ではなかったかと記憶している。取材か何かと思いながら、心当たりもないままに受話器を取った。受話器の向こうから女性の声で、実は司馬遼太郎先生の講演を週刊朝日に連載しているのですが、1984年に高知で病院関係の学会の講演を司馬先生がされており、その時に岡村先生が関係されていたとの事で講演の記録があればお借りしたいとの内容であった。

突然の話で途方に暮れる思いであったが、少なくとも私が関係したのではなく、父が何か講演に関係していたのではないのでしょうか？しかし、父も5年前に他界し、はっきりとした事は判りませんが、一応調べて見ますから少しお時間を下さいと言って電話を切った。

冷静になって考えてみると、以前に確か父が、司馬遼太郎先生が来るので『胡蝶の夢』を読まなくてはいけないと言っていたかすかな記憶が思い出された。一応調べてみますと返事した手前、何とかしなくてはと考えていたものの、私には調べる術もなく途方に暮れていた。

まず高知市、高知県の医師会に尋ねたところ、司馬先生が講演をされた記憶はあるものの10年以上も前の事ではっきりとした答えは得られなかった。高知で講演されたとのことより、坂本龍馬に関して講演をされたのではないかと勝手に想像して、坂本龍馬記念館の小椋館長にお尋ねをすればご存じではないかと思い電話をかけた。事情を説明してお尋ねしたところ残念ながら館長さんは講演の記憶は無く、司馬先生は講演と原稿は区別されており、講演はその場限りのもので、記録に残さないで下さいと常々おっしゃっていたので講演の記録は無いのではないのでしょうか？と親切にお答え下さった。私は非常に残念に思いがっかりしたものの、次に小椋館長は竜馬の事なら高知市市民環境部環境課の

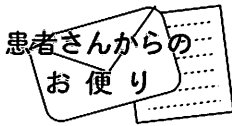
吉松靖峰氏に連絡をしてみればもっと詳しい事が判るかもしれませんよとご紹介を下さった。

面識のない吉松氏に突然電話をさせていただきお話をすると、「判りました、調べて見ますから少し時間を下さい」とご返事をいただいた。どのような学会で講演したのかも判らず、小椋館長の司馬先生の講演に対する考え方より、見つかからないのではないかと半ば諦めていた。暫くたったある日、見つかりましたよと突然に吉松氏よりお電話をいただいた。吉松氏によると1984年11月9日に当時の高知県立中央病院の近藤慶二院長が日本病院学会総会を主催をされ、その時の特別講演に司馬先生をお招きした事、講演の司会を父がしていたとの事であった。

学会を運営した業者さんにお尋ねしたところ、講演をビデオテープに残してあり必要ならば貸して下さいとのことであった。さらに吉松氏は親切にもテープを業者さんより借りてダビングをしておきますのでと言って下さった。私はお礼の言葉を言い、取りに伺いますからと言って電話を置いた。早速、高知市役所に吉松氏を訪ねテープを受け取った。急いでテープを見るとまず最初に司馬先生を紹介する懐かしい父の姿が出てきた。司馬先生の講演の内容は私の予想に反して竜馬の話ではなく、医学とは何かを語るために江戸末期から明治にかけての多彩な医療にたずさわった人々の話であった。

講演の中で先生は医学とは人格と関係のある学問であり、人間そのものを扱う学問であると述べられており、大変に神髄を捉えた言葉と感心をした。テープを急いで週刊朝日に送った所、本年5月に2回に分けて講演内容が連載された。講演のタイトル「花神・胡蝶の夢をめぐって」であった。送られてきた週刊誌を読んでいると、私にとって父の残した仕事の一つを手助け出来た様な気がすると共に、何か不思議な縁を感じ、ご協力いただいた多くの方々に改めて感謝を申

し上げる次第であります。



## 見たよ、経験したよ、手術室！

高知市 木村 史子

52歳ながらもピチピチ主婦を自負していた私が「右膝半月板損傷」と診断された。戸惑う私に医師は「関節鏡による検査だと思って入院しなさい」促され入院したのは今年の2月だった。案内された私の病室は5人部屋ながらも、真っ白いシーツの掛かったベッドに、たっぷり収納できる戸棚に冷蔵庫までがついていた。思わず「あーここが私の休息と解放のスペースなのだ！」とまるでホテル気分であった。

ところが、優しい看護婦さんや麻酔の先生の説明によって一つ一つなされていく準備は、「検査と言うよりまさしく手術そのものの手順ではないか？」とこれから起ころうとしている未知なる出来事に、興奮に近い興味がどこからか湧いてくるのをおぼえた。しかし下剤を飲んでトイレに駆けこみ、耐えた数分間の激痛だけは、手術前の辛さを私に教えた。

午後一時、ストレッチャーに乗せてもらい、遂にあのテレビドラマでよく見る「手術中」のランプがついているドアを入っていった。生まれて初めて入る手術室！静かでピンとした空気の白い部屋にはすでに医師や看護婦さんも待っておられた。ちょっぴり恐れていた、脊椎への麻酔もあっけなく終りほっとする。

私の着ているピンク色の手術着もしげしげと見ると、バリバリと何処でも取り外されるようにできていて「なるほど良くできているな」と妙に感心した。「右手と左手を軽く縛りますね。」なんだか十字架刑の姿。右に顔を向けて見るとツ、ツ、ツ、と音をたてて波型を描いている機器がみえる。心電図らしい。血圧計も巻かれ自動的に計測している。左を向くと何かわからない点滴がうたれている。麻酔の先生が私の後ろに、また横にびったりと付き添い優しい

言葉で不安から守って下さっているのが嬉しい。突然天井の巨大なランプがぱっとついて眩しい。「いよいよ始まる。これだと脚の方を見ていれば手術の様子がみな見える」と思っていたらお腹の上当たりの目線に緑のカーテンをすーと掛けられてしまった。おかげで関節鏡というものがどんな物かみることができなかった。しかし、モニターの画面が私の見える左方に備えられていた。「起きていますか？ここが痛んでいる半月板ですよ。」と説明してくださる。しかしそこに写っている映像は、素人の私にはとても関節の内部には思えなかった。「まるで細い白い昆布がゆらゆらいっぱい揺れている海の底みたい！骨はどれなんだろう？」と思っているとそこにスプーンを合わせたようなものが入っていった。そのひらひらを挟むたびに膝がキュンとひっぱられるを感じる。

こうして3時間程が過ぎて取り出した物を見せていただくともまるで鶏肉のささくれのようだった。このようにして私の初体験の手術は終わった。たくさんのスタッフの方達の思いやりと医学に守られて。そして病室での8日間。短かったが色々なことを教えられ、考えさせられた。様々な病の方達との出会いと別れ、暗く重い病の方たちに自然と湧く祈りの気持ち、病室での交わりの暖かさや、必要な協調性、見舞って下さった方への深い感謝、また夫の細かい心づかいは勿論のこと疲れた体をおして何夜も見舞ってくれた息子の無言の優しさ。様々な病の人達の集まる病院という場こそ、愛がダイナミックに働き、うごき、豊かに生まれる源泉ではないだろうか。痛み、苦しみの集まる場所の裏に秘められているものを、感じさせていただいた日々を感謝しています。

おくすりいろは (9)

薬局長 田村麻美子



貼付剤 (チョウフザイ)

ちょっとききなれない言葉ですがはりぐすりのことです。足腰の痛い時にはる湿布や狭心症の貼り薬が一般的ですが、この他に魚の目、皮膚炎、ケロイド、静脈注射時の疼痛緩和に使うものとか、女性ホルモンの含まれたものなど数多くあります。糖尿病のインスリンの貼り薬の研究も進んでいます。

貼付剤の一般的な特徴としては

- 効果を期待する所 (痛い所等) に直接効く。
- 効果が長続きする。
- 胃腸障害等の副作用が少ない。

- 消化管や肝臓で分解され効力を失うことがない。
  - 皮膚のかぶれが問題となる。
- 《保存上の注意》
- 開封後は使用残部を折りまげる、チャックをしめる等して外気にさらさないように。
  - 包装開封後は一ヵ月ぐらいまでに使って下さい。
  - 遮光し、涼しい所に保管。
- 《使用上の注意》
- 貼る部分の皮膚は清潔にし、汗はふいておく。
  - 湿布薬をひざや肩にはる時は二つ折りにし中央に少し切れ目を入れておくと曲げ延ばしの時に具合がよい。
  - はがれやすい時にはメッシュ状のサポーターを使って固定したり、固定用のシートで湿布をおおうこともできます。
  - 使用中にかゆみがあったりヒリヒリしたら早目にはがして下さい。そして次回来院時医師、薬剤師に御相談下さい。

俳句ポスト

水田 雅吉子

父の日に送る小包万歩計 仙頭知恵

「老化は足から」とか言われます。それを配慮してか、近頃の二世帯住宅は二階を高齢者用に設備する所が増えているようです。階段の上り下りを日常生活に取り入れて、健康で、長生きを…ということでしょう。父の日のプレゼントの中に万歩計を入れた作者の心情にも、同種の愛情が感じられて、心暖まります。

永住の地にはあらねどカンナ燃ゆ 青木静枝

終の棲家が定まるまで、幾度か転居を繰り返さなければなりません。仮住まいだから…と思っても、いつの間にか離れがたい情が育っていて辛い思いをするものです。ご自身丹精されたカンナでしょうか。まことに人の情をよく言い止めておられると、感銘いたしました。

星合の夜をいそしめるナースの灯 八木 敬

「星合の夜」というのは七夕のことです。天の川を舞台に年に一度、牽牛と織女が相睦む夜

です。そんな天界のロマンスをよそに、夜もナースは働いています。「若いのに…遊びたいだろうに…」と、いわく言い難い思いで作者は窓の灯を見ておられたのでしょうか。ナースの部屋の窓明かりが、星より美しく感じられます。

不景気のニュース流れて桜桃忌 高松和永

「桜桃忌」とは、6月19日、太宰治の忌日です。太宰治といえば、「斜陽」「人間失格」など数多くの文学作品と共に、そのセンセーショナルな生涯も広く世に知られています。このところの景気低迷のニュースと、不可解ともいえる太宰治の生き様とは、なるほどどこかで通じ合うような気がします。

雑の部屋口泡飛ばす読書会 秋山武子

読書会のだんだん熱気を帯びてきた様子が、面白く表現されています。生々しい人間諷詠の背後に、お雑様が整然として冷やかかで、鮮やかな印象を持つ句です。

父の日の常のごとくに過ぎにけり 奥山貴司

私が子供の頃は、まだ父の日はありませんでした。あの頃父の日があったら…と思うことがあります。父は照れ屋でしたからきっと嫌がったことでしょう。改まって祝われるのも照れ臭いし、かといって何事も無いというのも淋しい

し、日本のお父さんの複雑な一日ですネ。

\*夏の雲湧く五分粥の患者食 八木 敬  
\*黒石を打つ春昼の深呼吸 秋山武子  
\*病院の食事今日は鰻なり 奥山貫司

\*人もみぬ境内奥の茅の輪かな 高松和永  
\*秋立つや南京櫨の葉ずれにも 青木静枝  
\*病む足を曳き立つ門や夏あかね //

★頂上がパンにある日や書を曝す 雅 吉 子

## ひろば

### 入院

外来看護婦

秋山 明美



早朝、インターホンが何度も鳴るのが聞こえ目が醒めると、そこは病院のベッドの上だった。まだ、インターホンは鳴っていた。体を起こし、部屋のドアを開けると、それはナース・ステーションから聞える音だった。

“ナースコールだ！”つい走ってしまった。右の下腹部が少し痛んだ。

(3日前、虫垂炎の手術をしたばかりなのだ)躊躇なくナースコールを取った。

『……………』『どうしました?』

『お腹が痛い』—すぐぐ押し殺した様な、辛そうな声が聞こえた。

「すぐ行きます！」思わず言ってしまった。私はパジャマだった。

ナース・ステーションにナースはいなかった。他の重傷者の所に行っているのだろう。

他の階のナース・ステーションに電話で連絡し、私は部屋にもどった。

ナースコールを押した人は、前日の昼に私と何十分もいろんな話をした人だった。

私は自分のいる部屋を出て、その人の所へ行った。ナースが来るまでの間でもと思って。

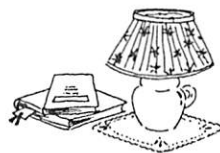
私が「又、お腹が痛むが?」と聞いて聞くと、一瞬、その人は「アレッ」という顔になって、『あんたも具合いいわけじゃないろうに』と言って、自分の事よりも私の事を心配してくれた。「看護婦さんに強い腹痛を訴えてますって言うてるから、すぐ来てくれるき。」私はそう言いながら、その人の手をさすっていた。しばらくしてナースが来てくれた為、私はすすぐと自分の部屋に帰った。AM. 5:00前だった。一度横になってみたが眠れなかった。

とっさにナースコールを取った事、パジャマでいる自分が無力だと感じた事、その人に何もしてあげられなかった。自分の働いている病院なのに……。

昼前にその人は、私の所に、お礼を言いに来て下さった。なんだか照れくさかった。

早く退院して白衣を着たい。白衣を着てたくさんの人に喜ばれる仕事をしたい。

強くそう思った。



### 我が家の 自慢の場所

事務主任

鎌倉 圭子



家族みんなが以前からあるといいなぁと思いつけて、今年の夏やっと願いが叶ったものがあります。それは父の作ったウッドデッキ(木製ベランダ)です。意外と早く作れたようで、約2週間で完成。休みの日はもちろん、仕事から帰ってきても夕食までカンナやドリルの音が鳴り響いていました。もう少しで完成という時に何日も降り続く雨。父の家での仕事は天候には恵まれなかったようです。

2週間で出来て、しかも手作りという大した事ない、と思われがちですが、それがどうして、なかなか立派なものです。

家族みんなうれしくて、一日一回はウッドデッキに出てポーッと庭を眺めています。何より喜んでいるのはやはり父です。イスを置いて「我れながら良く出来た。」と言わんばかりにおいしそうにビールを飲みご満悦の様子。

今我が家で一番自慢できる場所が父の作ったウッドデッキなのです。

## ニューフェイス紹介



岡林美喜子さん  
看護助手  
趣味 ドライブ



吉岡美夕紀さん  
准看護婦  
高知中央高校衛生看護科卒  
趣味 音楽 (SAX・ピアノ)



西岡 稔恵さん  
看護婦  
高知市立高等看護学院卒  
趣味 映画鑑賞



河村 あゆさん  
准看護婦  
土佐准看護学院卒  
趣味 スポーツ、音楽鑑賞



濱田 愛子さん  
准看護婦  
藤井学園寒川高校衛生看護科卒  
趣味 水泳、ピアノをひくこと

### 人 事

医事課長 川久保一美  
医事課外来主任 鎌倉 圭子

### 退 職

ごくろうさまでした。  
西村 善巳さん (看護婦) 7月20日  
森田 恵子さん (事務主任) "  
手島亜由美さん (准看護婦) 7月30日

### 慰 安 旅 行

日 時 第1班 10月16日(金)～19日(月)  
第2班 10月23日(金)～26日(月)  
行 先 台湾 (台北)

## 第1回病診連絡会議

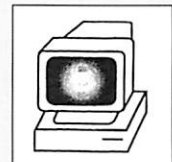
平成10年7月23日高知新阪急ホテルで初めての病診連絡会議が開催されました。この会議の目的は日頃本院の登録医として、患者さんの治療に当たって下さっている小谷放射線科・内科小谷了一先生、高松内科クリニック・高松和永先生、上田クリニック・上田真先生、植田医院・植田一穂先生、石立クリニック・間崎民夫先生と本院のスタッフが顔を合わせ、より一層連携を密にし、患者さんにとって入院前、入院中、退院後の良き医療が提供出来るよう開催されました。活発な意見交換が行われ有意義な時間を過ごす事が出来ました。ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきました各先生に厚く御礼を申し上げます。今後も継続をして開催をしたいと思っておりますので宜しくお願いを致します。

### 第12回健康講座のお知らせ

日時 9月26日(土)  
午後1時30分～3時  
場所 岡村病院 2階会議室  
演題 「血管の病気の話」  
講師 岡村病院院長 岡村 高雄  
(講演のあと、医療相談に応じます。  
多数の方のご出席をお待ちしています。)

### 岡村病院ホームページ

本年5月12日よりホームページをインターネットに開設しております。1日に平均6～7件のアクセスがあり現在までに600人以上の方々にアクセスしていただきました。適時内容を更新しており、病気の話等も含まれております。時間がございましたら一度お立ち寄り下さい。



ホームページ・アドレス

<http://www.okamura-hp.or.jp/>